



「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキ ケンスケさんのプロジェクト OVER THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

トルコ地震の「恩返し」避難所でケバブ炊き出し

「トルコ地震の恩返しを」



能登半島地震の被災地で、大阪府からキッチンカーで駆け付けケバブを振る舞ったトルコ料理店主がいる。「トルコ地震の恩返しを」。2023 年 2 月に母国を襲った大地震の際に受けた日本の支援に感謝し、能登の被災者に自慢の料理を届けた。

トルコ地震の際、日本政府はただちにトルコに国際緊急援助隊を派遣し、警察官や消防隊員らでつくる救助チームと医師や看護師などの医療チームが行方不明者の捜索や救護などを行っていた。

店主の家族や親戚は無事だったが、「知人の子どもや友人が亡くなった」という。多くの常連客らから応援の言葉を掛けられ、寄付も 60 万円以上集まった。

「何か恩返しできることがあれば」と考え続けていたというエルユルマスさん。能登地震後、すぐに府内の一般社団法人を通じて支援を申請。キッチンカーにケバブの材料となるチキンなどを積み、15 日夕、派遣先の石川県珠洲市に向かった。16 日昼、避難所の市立宝立小中学校には笑顔で炊き出しを振る舞うエルユルマスさんの姿があった。被災者が続々と訪れ、パンに挟んだケバブサンドなどが見る見るはけていった。

避難して 2 週間がたつ被災者は「おいしい。今は食べ物だけが楽しみなんです」と顔をほころばせた。エルユルマスさんは「想像以上に大変な状況。少しでも笑顔でいてほしいのでまた来たい」と話した。(時事.com)



炊き出しのケバブサンドを被災者に手渡す
エルユルマス・セルチュクさん



トルコ地震の際に避難所に張られた
国際緊急援助隊医療チームのテント

1月27日(土)
17:10-18:00
チャリティー授業
お申込み



東日本大震災の際はトルコが日本に救助隊を送り、トルコ地震の際は日本が「恩返しするときが来た」と、支援に全力を挙げたとニュースで見ました。トルコも地震が多い国で有名で、震災時には両国相互に支援をしています。「支援」は国名が表に出てきますが、それは中にいるひとりひとりの気持ちが支えているのではないのでしょうか。実際に被災地に行って物資を届けたり炊き出しの支援ができなくても、支えたい、力になりたいなどそれぞれの気持ちが大切です。KOMABA では 1 月 27 日 (土) に能登半島地震のチャリティー授業を行います。子どもたちと一緒に災害について学び、備えていきたいと思います。(西出)